

令和元年度自己評価

I・保育の計画性

1.園の教育理念・教育方針の理解

◎内容◎	5	4	3	2	1
園の教育理念や教育方針を理解している	9	9	3	1	0
園の教育方針共感している	12	9	1	0	0
園の方針、園長の考え方について園長や教職員と話し合っている	11	8	2	1	0
園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	11	8	2	1	0

2.幼稚園教育要領の理解

幼稚園教育要領を理解していると思う	4	9	7	2	0
幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている	5	8	6	3	0
幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる	5	10	4	3	0

3.教育課程の編成

◎内容◎	5	4	3	2	1
園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神をふまえ園の教育理念・教育方針にしたがい編成している	10	8	2	2	0
園の教育課程を理解していると思う	8	9	3	1	1
園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている	10	8	4	0	0
園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力しあって編成している	14	7	1	0	0
園の教育課程は社会状況や幼児の実態、幼児の実態などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	12	7	3	0	0

4.指導計画の作成

園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	13	5	4	0	0
指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	11	7	4	0	0
長期の指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している	10	8	4	0	0
短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるように順応性のあるものになっている	9	9	3	1	0
指導計画は総合的な活動ができるように考慮して作成している	9	11	1	1	0
幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している	9	11	1	1	0

5.環境の構成

◎内容◎	5	4	3	2	1
安全で清潔感のある環境構成をしている	9	10	3	0	0
指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている	7	10	4	1	0
幼児が自ら活動を生み出していけるような素材と出会いを考えている	8	9	5	0	0
幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成している	10	8	3	1	0
遊びに必要な遊具や用具、素材などを、質・数量を配慮して用意している	9	11	2	0	0
楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をしている	9	9	4	0	0
幼児の目線に配慮した環境構成をしている	10	7	4	1	0
幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している	8	10	2	2	0
幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている	7	10	4	1	0
教師の願いや意図をもって環境構成している	11	7	3	1	0
幼児の発達や生活を見通して環境構成をしている	12	7	3	0	0
季節の変化に応じた環境構成をしている	11	7	4	0	0
異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	8	10	3	0	1

6. 保育と計画の評価・反省

◎内容◎	5	4	3	2	1
自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている	11	8	2	1	0
評価・反省は観点を決めて行っている	9	8	3	1	1
自分の保育と計画・反省については次の保育と計画に生かせるように行っている	13	6	2	0	1
自分の保育を他の教師たちに見てもらい、それをもとに検討している	8	5	6	3	0
互いに保育を見せ合って、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている	9	4	6	3	0

Ⅱ・保育のあり方 幼児への対応

1.健康と安全への配慮

◎内容◎	5	4	3	2	1
朝の登園時には特に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している	17	4	1	0	0
体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している	14	5	3	0	0
けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている	15	1	6	0	0
万が一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡を取り、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている	12	8	2	0	0
園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察している	12	8	0	2	0
危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	14	6	2	0	0
クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気をつけている	16	5	1	0	0
トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している	12	7	3	0	0

2. 幼児のみとりと理解

◎内容◎	5	4	3	2	1
一人一人の幼児をよく観察するように心がけている	12	5	4	1	0
幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めようとしている	11	7	3	1	0
幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察することができる	12	6	2	2	0
見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を観察することができる	11	7	2	2	0
一人の幼児をじっくり見ながら、周囲にも目を配ることができる	10	8	3	1	0
幼児のこれまでの姿、今の姿から、これからの活動をある程度予想することができる	12	8	1	1	0
個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持つことができる	13	7	1	1	0
幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	15	5	2	0	0
幼児たちが今興味や関心を持っていることがわかる	13	6	3	0	0
幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている	11	8	3	0	0
幼児の理解のために保護者と話し合うことができる	10	10	1	1	0
幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している	15	5	2	0	0
幼児の姿を多面的にとらえることができる	16	5	1	0	0

3.指導者の関わり{共同作業者として}

◎内容◎	5	4	3	2	1
幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている	14	7	0	1	0
幼児の気持ちに共感しながら、一緒に遊んでいる	12	8	2	0	0
一人一人の幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている	12	8	1	1	0
幼児の性格や個性を把握するように努めている	14	6	1	0	1
幼児からのアイデアをくみとって遊びを深めている	15	5	1	1	0

{あこがれを形成するモデルとして}

「先生のようにやってみたい」と思うような、モデルとしての姿を心がけている	13	7	2	0	0
教師らしい品格のある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	10	7	5	0	0
幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている	15	6	0	1	0
善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている	14	6	2	0	0

{心のよりどころとして}

◎内容◎	5	4	3	2	1
幼児一人一人のありのままの姿を受け入れようとしている	14	6	2	0	0
幼児とのスキンシップをとるようにしている	15	4	3	0	0
幼児一人一人のよさを認めるようにしている	15	3	3	1	0
幼児の話をよく聞くようにしている	19	2	1	0	0

{遊びの援助者として}

幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している	14	5	3	0	0
幼児の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけをしている	15	4	2	1	0
幼児が行き詰っている時に、適切な援助をしている	13	6	2	0	1
幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	12	6	3	1	0
幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉がけをしている	12	8	1	0	1
禁止、命令、行動を急がせたり、自身を失わせるような言葉や態度はできるだけ控えている	7	9	3	2	1
“一人一人”と“みんな”の関係を常に考えながらかわっている	14	4	3	1	0
幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	11	9	1	1	0

{その他}

◎内容◎	5	4	3	2	1
幼児の年齢や発達に応じたかかわり方をしている	12	7	2	1	0
幼児の個性や性格、特徴に応じたかかわり方をしている	12	8	2	0	0
幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしていない	16	5	0	1	0
幼児の家庭環境や、これまでの生育歴などを考慮してかかわっている	13	8	1	0	0

4.保育者同士の協力・連携

クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉掛けや対応をしている	15	4	2	1	0
クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している	13	5	3	1	0
幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有している	12	6	2	1	1
教職員全員が、すべての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている	12	3	5	2	0
他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫をしている	9	6	3	4	0
他のクラスや異年齢の幼児たちとかかわれるよう、さまざまな保育の形態を取り入れている	8	4	6	3	1

Ⅲ・保育者としての資質や能力・良識・適正

1. 専門家としての能力・良識・義務{専門家としての能力}

◎内容◎	5	4	3	2	1
幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	8	7	5	2	0
より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	4	11	6	0	1
幼児の性格や個性を把握するように努めている	12	6	3	1	0
保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている	8	8	4	2	0
仕事の手順をよく考え、能率よく行っている	6	7	8	0	1
幼児が考え、感じていることがある程度予測できる	8	8	4	1	1

{ 良識とマナー }

保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	7	9	3	3	0
幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにしている	14	6	1	1	0
幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている	15	5	2	0	0
朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めてしている	15	5	2	0	0
何かしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	15	6	1	0	0
園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	14	7	1	0	0
服装や、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	14	6	2	0	0

{義務}

◎内容◎	5	4	3	2	1
自らの健康に配慮し、爪が伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性に気を付けている	16	5	1	0	0
子どもと保護者の顔や名前、性格などを覚えている	15	5	1	0	0
職務上、知り得たプライバシーに関する情報など秘密を守っている	20	2	0	0	0
幼稚園の電話やコピー、紙や教材などを私用に使っていない	20	1	1	0	0
園の重要書類は持ち出していない	20	2	0	0	0
教材、教具の管理、点検に気を配っている	11	10	1	0	0
クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している	13	6	3	0	0
現金の管理は間違いのないよう行っている	17	4	1	0	0
締め切りのある仕事や提出物は締め切り日をきちんと守っている	13	7	1	1	0
教職員や園の批判を軽はずみにしていない	12	9	0	0	1

2.組織の一員としての在り方

◎内容◎	5	4	3	2	1
教職員全員で一つのチームであることを意識している	13	8	0	1	0
会議や打ち合わせは時間を厳守している	19	2	1	0	0
他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べる事が出来る	12	6	4	0	0
自分の意見と異なる結果となっても議論の上決定したことは、協力して実行している	15	6	0	1	0
会議の時は自分の意見や質問を前もって考えて臨んでいる	6	10	5	1	0
子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や教頭(主任)に報告、連絡、相談をしている	14	6	1	1	0
当番や役割による仕事は確実にやっている	15	6	1	0	0
教職員全員と親しく付き合い、偏った人間関係を作っていない	14	4	4	0	0
上司の指示、命令には責任を持って実行している	19	2	0	1	0
教職員や園の批判を軽はずみにしていない	17	4	1	0	0
教職員のプライバシーについてもこれらを他に漏らしていない	19	2	1	0	0
園に関することについてみだりに、または不正かなまに他へ話したりしていない	17	3	2	0	0

3.保育の楽しみ・喜び

◎内容◎	5	4	3	2	1
幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである	20	1	1	0	0
幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	19	2	1	0	0
幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる	18	3	1	0	0
幼児と一緒に生活を創り出すことが楽しい	19	2	1	0	0
特に配慮を要する幼児が望ましい方向へと変容していく過程に喜びを感じる	18	2	2	0	0

4.まわりを感じ取れる感性・アンテナ

幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	10	7	5	0	0
幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	8	6	6	2	0
幼稚園の仕事の他に、多様な趣味を持っている	7	7	6	2	0
自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている	8	9	4	1	0
地域のことに関心がある	5	9	3	4	1

IV・保護者への対応

1.情報の発信と受信

◎内容◎	5	4	3	2	1
クラスの子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラス便りなどで知らせている	14	5	3	0	0
電話、連絡帳などで、緊急な連絡等を行っている	19	2	1	0	0
個々の子どもの様子は直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている	16	5	1	0	0
保育参観や保護者会を開いて子どもについて、保育について、課程でのあり方について共通理解を得るよう努めている	12	5	4	1	0
場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり、保護者と話し合ったりする	13	4	4	1	0
いつでも個人懇談が行えるようにしておく	14	3	3	2	0
自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く	13	7	2	0	0
必要に応じて、ビデオ、写真、イラストなどさまざまな方法で分かりやすく伝える工夫をしている	8	9	3	1	1

2.協力と支援

◎内容◎	5	4	3	2	1
保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったりしないで、園長や教頭(主任)、学年主任などに報告や相談をしている	16	3	2	1	0
保護者の要望などを受け止めて実行する場合には、そのことを教育的な意義付けをはっきりさせてからにしている	15	4	2	1	0
保護者への支援が可能な部分については園長指導の下、教職員の合意の上で行っている	17	1	3	1	0
保護者の協力が必要な場合は、園長と協議し具体的な協力の在り方について、保護者と話し合っている	16	3	2	1	0

3.守秘義務の厳守

保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従っている	19	2	1	0	0
個々の子どもの情報は口外していない	20	2	0	0	0
保護者、家族の情報は口外していない	19	3	0	0	0

4.対応上のマナー・良識

◎内容◎	5	4	3	2	1
正しい日本語、丁寧な言葉と敬語を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いてしっかり聞いている	6	12	3	1	0
親しくなったからと言っても、友だち同士のような話し方はしていない	14	6	1	1	0
電話は相手が見えないために誤解を生じやすい。手短かに、簡潔に要領よく、対話することを心がける	11	6	5	0	0
保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差等によって区別、差別をしていない	19	1	1	1	0
長期の欠席や入院等の場合は見舞いったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	15	5	2	0	0
園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている	18	2	2	0	0
保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	13	7	2	0	0

5.クレームへの対処の仕方

保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している	17	3	2	0	0
クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処している	17	4	1	0	0

V・地域の自然や社会とのかかわり

1.地域や自然・人々とのかかわり

◎内容◎	5	4	3	2	1
地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	14	4	4	0	0
地域の自然や主な施設の場所、交通機関、主な行事などについて、ある程度理解している	7	7	3	5	0
地域の自然や機関を指導計画の中に位置づけて活用している	5	9	5	3	0
地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をしている	3	6	6	5	2

2.小学校との連携

小学校の教育内容について理解しようとしている	4	7	8	2	1
卒園した子どもの情報を得るよう努めている	8	4	7	2	1
地域の小学校の行事や公開授業に関心をもっている	10	5	5	1	1

3.地域への開放と支援

地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している	3	4	10	4	1
地域開放や子育ての支援のあり方について、教職員全体で話し合っている	3	4	8	6	1

VI・研修と研究

1.研修・研究への意欲・態度

◎内容◎	5	4	3	2	1
研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	6	8	6	2	0
研修会や研究会に参加する場合は、事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている	3	7	7	1	4
研修会や研究会では活発に発言している	5	4	7	6	0
専門書や専門雑誌を読んでいる	5	9	4	3	1
研究保育を参観するときは自分なりの課題と視点をもって行っている	8	6	5	2	1
自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行っている	7	8	5	2	0
自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や教頭(主任)、園長と話し合っている	10	9	3	0	0
他園を見学したり、公開保育を観てみたいと思う	11	5	6	0	0

2.教師としての専門性に関する研修・研究

◎内容◎	5	4	3	2	1
子どものみとりとその内面理解について研修・研究を行っている	7	9	5	0	1
指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方に関する研修・研究を行っている	5	8	8	0	1
環境構成・再構成のあり方について研修・研究を行っている	6	9	6	0	1
指導とかかわりのあり方について研修・研究を行っている	5	8	6	2	1
自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている	4	10	6	1	1
確立された幼児観・保育観について客観的に見つめるための研修・研究を行っている	4	9	7	1	1
保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行っている	4	10	6	2	0
自らの得意分野を確立するための研修・研究を行っている	6	9	4	3	0
良識・常識・義務・マナーなどに関する研修・研究を行っている	8	6	5	2	1
保護者への対応のあり方について研修・研究を行っている	8	7	4	3	0

3.遊具・教材に関する研修・研究

園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方を知っている	10	9	2	1	0
園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している	9	7	3	2	1
園の遊具や教材について子どもはどんな使い方をするのか予測できる	9	8	4	1	0
園の遊具や教材についてどのような使い方が危険かが分かる	9	10	2	1	0

4.園内の環境に関する研修・研究

◎内容◎	5	4	3	2	1
園者の構造(平屋、二階建て、三階建て)や保育室・遊戯室の位置・大きさなどが持つ特質が、幼児にとってどのような教育的な意味を持つかについて理解している	6	9	6	0	1
園庭や農耕栽培地、砂場、通路、池、かくれ場所などの位置、広さなどが幼児にとってどのような教育的な意味を持つかについて理解している	6	11	4	0	1
園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に生かしている	8	8	4	2	0
園内の環境を、いくつかのまとまりや関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる	8	8	4	1	1

5.今日的課題に関する研修・研究

子どもを取り巻くさまざまな状況が0してきていることについて学習し、何が問題であるが、背景・原因・実態はどうであるかについて理解したり、学習したりしている	12	4	4	2	0
様々な変化の中で、幼児にとって何が問題であるか、幼稚園としてはそれに対してどのような教育が行わなければならないかについて考えたり学習している	11	4	5	2	0
アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解している	10	6	5	1	0
障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している	7	9	4	2	0
預かり保育や子育て支援などのあり方・考え方について学習している	8	9	4	0	1
チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	7	7	4	3	1
幼少連携について、その意義やあり方について研修・研究している	5	8	5	3	1
危機管理について、現状やあり方について研修・研究している	6	9	4	3	0

6.自らを高めるための学習

◎内容◎	5	4	3	2	1
趣味・人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	10	6	6	0	0
保育の専門知識や技能のほかに、趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある	8	7	5	2	0
尊敬する人の話はぜひ聞きたい	13	8	1	0	0
いろいろな人と意見を交換したい	12	6	4	0	0